

ハバネロ友の会 会報

3月号

2013年 3月 18日

ハバネロ友の会 会員様

三寒四温で日に日に春に向けて暖かくなって来ておりますが、皆様におかれましては如何でしょうか。
2月の後半にはハバネロの播種が始まり、5月の定植までに苗半作と言われているように苗作り次第で収穫の優劣に大きく影響してきますので、しっかりと対応して行きたいと思っております。

今月も皆様のお陰をもちまして3月郷の配信が出来ますこと、心より御礼申し上げます。
是非、読者の方におかれましては寄稿いただけますようよろしくお願いいたします。



この写真は昨年の5月10日に撮ったもので、定植間際の画像です。

事務局

「ハバネロメルマガ会員」ご参加お勧めください。

ハバネロに関心を持たれておられる方がお近くにおられましたら是非お誘いください。
申込みは簡単で、ホームページより申込みに必要事項をご記入頂き、事務局へお送りしていただけるだけで登録完了です。また、いつでも退会出来ますのでお気軽にお申込みください。
メルマガ会員の方には特典も考えております。

会報誌の郵送はほとんどニーズがないこともあり、今月をもちまして、終了させていただきます。

事務局

会員の皆様の宣伝コーナー開設いたします。

ご自分の会社やお店の宣伝・自己紹介など、案内したい内容がありまましたら投稿してください。
行政関係の方もどんどん投稿してください。

ハバネロ以外でも全く問題ありませんので、会報誌を活用していただけたら幸いです。
原稿の締め切りは、毎月5日までお送りいただけましたら幸いです。
当月の10日頃をめどに、会報誌に掲載して配信致します。
原稿の送り先は、事務局(info@kyoto-habanero.com)宛にお願いいたします。

事務局

MUTTSUNN 通信

ラテンアメリカでは男性が女性に対して主導権を握るのが基本。また、そのような男性を「マッチョ」と呼び男らしさの象徴でもあります。

日本も古くから男性を立てる妻が良妻とされてきましたが、ラテンアメリカでは男性の女性に対する接し方は真逆。例えば、日本では女性は男性の後ろを歩くのがよしとされてきましたが、こちらでは逆で狭い道に入ったり、レストランなどに入るのも男性がエスコートして女性を先に通します。ちょっと重そうな荷物があれば男性がさらりと持ってくれたり・・・

もちろん中には構わずさっさと歩いてしまう男性もいますが、そういう人は教育がなってないと非難されてしまいます。まさしく私たちが想像するファーストレディ文化そのものですね。

また「echar /pintar flores」という粋な言葉があるのですが、直訳すると「花をさす、花を描く」という意味で、どういうことかという、「今日は一段とかわいいね」とか「君の瞳は本当にきれいだ」というように女の子にお世辞を言うってうれしがらせる文化です。

特に女性を口説くための男性の努力は健気なもので、携帯電話を片手に女性へ送る詩を一生懸命考えたりしています。そんな時は男の友情の見せどころ、男性陣みんなでこのフレーズはどうだろうか、いやそれはあんまりだろうなどと頭をひねり、恋の助太刀をします。日本男性からは一生聞けないであろうくっさ~いフレーズがぴょんぴょんと次から次へ飛び出してくること。

この相反するような「マッチョ」と「ファーストレディ」の文化がどうして共存できるのか、、、そうです、結局はどちらも「男性主導」なのです。

女性を喜ばせることが習慣としてしみついているわけですから、もちろん女性も彼らの言葉を鵜呑みにはしません。それでも異母兄弟がいたり、シングルマザーが多かったり、ついつい男性のうまい口に乗せられてしまう女性が後をたたないのもまたラテンアメリカの悲劇でしょうか。

とはいえ、女性をうまく喜ばせて、エスコートする。それがいい男なわけでその文化は素敵ですよ。

よくある家庭やコミュニティのパーティでも若い男性がデブっちょのおばちゃんや、しわしわのおばあちゃんをエスコートしてダンスに誘います。そしてそんな時はおばあちゃんたちも女の顔をするのです。いくつになろうと女性扱いされればかわいい女になれる。複雑そうに見える女心も意外と単純なものです。

mutsumi



ハバネロ通信 3月号 児嶋きよみ(Office Com Junto 主宰)

2013年2月 Global Session Report



今月のゲストは、亀岡市英語指導助手として、2012年7月から赴任している、Mason (メイスン) さんです。アメリカのボストン出身です。ボストンは、11月と9月のゲストをお願いした高原さんご夫妻が滞在されていた街です。これからボストンの話もできそうですね。京都や、大津よりも天気の良い

Date: 2013年2月2日(土) 10:30 12:00 (フランスでは
場所: ガレリア 3階会議室 バレンタインに
ゲストスピーカー: Mason.M.Su さん 花束を)
Coordinator: 秋宗 希久子さん
Title: 日本に来て半年過ぎて
(この国が好きと思うことと、当惑することの2面性について)
参加者: 14名



いつもの自己紹介です。

YN: これから英語を学習したい。

SM: Native Kameokan

SF: 囲碁クラブで初段を目指す。

TK: 水彩画が趣味で、午後に人物画を画く予定

HK: 大津市在住・京都では今日節分会があるので、午後は、そちらへ

KA: 学校で英語サポーターをしている・以前は英語を使う会社で仕事をしていた。

YS: 大学院博士課程に在学中

MM: 長岡京市在住・1月にラオスに行っていて、2校目の学校建設支援をしている。

MO: 英語を話すことが好き・今日のテーマに興味がある。

MN: 中国語を 11:30 までやっているの、なかなか参加できなかった。2003 から 2年 半中国にいた。

S: ヘルパーさん

SK: 今日のテーマに興味がある

KK: 1月末に論文を提出したところ

秋宗 (A): なぜ日本へ来ようと思ったのか、また、日本の印象を聞かせてほしいです。

Mason (M): ニューヨークから 4時間ほど離れた Boston から来た。22 才で昨年大学を

卒業しました。父母は、台湾出身の 2 世。家では、中国語 (普通語) を話して育ちました。2 人の弟とは、英語で話す。家の仕事の関係で上海に 7 年間 (中学校~高校) 住んでいました。台湾の親戚を訪ねることもある。高校生の時から日本の文化に興味があって、漫画の「花よりだんご」が好き。高校から日本語を学びたかったが、フランス語と中国語しかなく、大学に行ってから日本語を学びました。初めて日本に来たのは、高 2 の時で父母と東京に来ました。その印象は、きれいな国・ていねい・食べ物もおいしいなどでした。観光客として来た時は、親切と思ったが、住むと少しちがうと思う。他のアジアの国とも少しちがう。今は、日本語を少し話すのでわかってきたこともありま す。毎月伝統的な行事があるのもいいと思います。旧正月に台湾へ行ったことがある。

HK: どんなふうに祝いますか? 花火は?

M: クラッカー

MM: 食べ物はどうですか?

M: 中国の餅は、日本と違い、あんこが混ざり合っていて、ピンク色とかあります。

KK: さっき、台湾出身のご両親とマンダリンで話していたと言っていましたね。

マンダリンの Mandar は、ポルトガル語の「命令する」という意味で、リンはたぶん Lingua (語) から来ていると思います。「命令する語」というのは、中国の言語政策で多くの方言を抱えるために、学校での言語を統一し、教える必要が革命後起こってきたからではないでしょうか。つまりいやおうなく、命令して統一語としての、いわゆる中国語で言う、「普通話」を作り上げなければならなかったのです。そのマンダリンを米国で、台湾出身のご両親と話していたのですか？

M: そうです。

第2章を読んで

A: FAXの話があったが、学校では確かに使用していますね。

昔は、森精機につとめ、JTBでも仕事をしてきたが、公と私企業の差を感じます。

25年前に仕事を始めたときには、PCもeメールもなかったが、会社がシリコンバレーから取ってきて、どの人にもパソコンがあてがわれました。学校では20年後もFAXマシーンを使っていますね。

M: 若い子は、テクノロジーを良く使いこなしているのに、FAXも使うので、その落差に驚いています。

KK: 学校だけではなくて、他でもFAXをよく使っていますよ。

HK: PCだとクレジットナンバーの流出などあり、残るのが怖い。それで、FAXを使ったり、PCは、クレジット以外で使うとか、使い分けをしているのです。

MO: 市役所でも公的な書類は記入して提出し、ファイルします。

HK: 高齢者はPCを使わないし。

M: アメリカでは高齢者もPCに慣れている。Ipadも使ったり、スカイプで孫と話したりしている。

SF: 15年から20年ほど前に会社でPCを配られて、ワードもエクセルも若者も年寄りも使いこなさなければならなくなりました。

KK: 高齢者に使いやすい機器を作り、ベッドで動けなくても、他との会話のできるPCは、高齢者にこそ、必要だと思いますよ。

TK: 東アジアでは、電話線を使ってパソコンを使っていた。写真は遅いし、高かったのでも、FAXが便利だった。パキスタンやバングラデシュも行ったが、PCは、ホテル次第だった。

M: 台湾からFAXを送ってと言われ、どうしていいか、わからなかった。

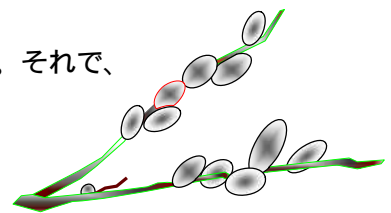
A: 日本のトイレのシステムについても言っているが、世界一では？

MO: おみやげに買って帰るらしいですね。

M: トイレのドアを開けただけで、ふたが開き、びっくりしたと友人が言っていました。

MO: トイレは、本を読むのにベストプレイスです。

M: 日本はバスとトイレが分かれていて、トイレには小さい窓があり、寒い。それで、ヒータートイレットがいるのかと思います。



3章を読む

A: read the Line (行間を読む) という意味だと思いますが、日本人が皆、そのように行間を読むと知っているんですか？

M: どういう意味なのかとよく考えることが多いです。

A: 全部の日本人ではないと思います。たとえば、奈良・京都・大阪でもちがうし。

MM: 大阪に生まれて、京都に来て住んでいるがだいぶちがうと思います。

SK: エンジニアだが、技術職やビジネスの分野で、行間を読めなどと言われたことはないですよ。

A: イギリスでは、あるかも。

SF: 妻に食事について「味が濃いとか薄い」とか、はっきり言うと怒るんです。はっきり言わない方が平和かもしれない。

A: ちいさな島にたくさんの方が住んでいるので、他の人がどう思っているのか考えるほうが、うまくいくのかもしれないですね。

M: 別の味のほうがいいとはっきりいうんですか？

KK: 私は、彼の奥さんを知っているけれど、やさしい人ですよ。もし、私なら、「自分で料理すれば？」というと思う。

MO: Yes・Noを目の前で言うと、少し、気に障るかもしれないですね。若者はちがうかもしれないが、よく、顔を見て入るとわかるので、言葉より、顔で判断するかもしれないですね。

M: 1例では、ラミネートする機械を使ったあとで、倉庫に片付けようとしたAに、Bが、「あな

たの手に熱すぎるのでは？」と聞いた。アメリカでなら、聞かれた A は、「手に熱くないので大丈夫」と答えるでしょう。しかし、日本では、B の真意は、「機械が熱すぎるので、冷ましてからかたづけろべきだ」だったようです。

もうひとつの例では、B がオフィスでノースリーブの服を着ていて、A は、「寒くないの？」と聞いたとする。B は、どのように考えたらいいのでしょうか？

HK：自分も「寒くないの？」とよく言われますよ。（冬でも半袖の T シャツを着ているので）

SK：エコとも言うしね。

4 章から

「たぶん私の見方はまだ、日本に来て間もないので日本文化に対する考えは狭いと思うが、アメリカでの文化とのちがいを学習している途中なので、いろいろな意見を聞きたです。」

MO：日本では、けんかと言ってもマイルドにということがありますね。

M：小さい時から自分の意見を言うことが一番大切と言われて育ってきた文化では、個人が大事という考えです。一方日本では、ハーモニーが重要で、直接言わないのもこの点がちがうのかもしれないですね。

KK：どちらが大切なのか、今、日本でもいろいろ考え中なのではないかと思います。西洋式の考えを全くだめとも思っていないので。

A：世代でもちがうかもしれないですね。大人の世代は、ハーモニーが大切と言われ、育ってきた。若者は、自分の意見は言うようにと言われていていると思いますが。

HK：最初はソフトに言い、それでも聞かないようだったら、もう少し強く言おうかと試してみよう。その後、あんまりと思ったら、NO とはっきり言うなど段階を追って言う場合もありますね。

A：家の中ではそれでいいが、外ではそればかりではやっていけないので時々、トラブルが起こるようです。ママ友と行きたくないのに「公園へ行く？」と聞かれ、「OK」と言ってしまおうか。

M：そういう時は外国人はどうしたらいいの？

A：自分らしくやればいい。ごまかす必要はないですよ。

KK：外国に住んでいた日本人も実は、元からの日本人と変わってしまい、住みにくく感じることもあるんですよ。

SK：わからなかったら、確かめたほうが間違いがないと思います。

KK：ここ来ると、別の文化も存在するのだと理解できるようになるんじゃないですか。

SK：A 対 B とか、真実かそうでないかなどディベートする機会も作って練習するといいですね。

MO：別の話になるが、他と比べると日本のサービスはとて素晴らしいと思います。

M：日本はホスピタリティをとて大切にすると大学で学んだ。（おもてなし）

ホテルへ行くと特に日本のサービスが一番と思います。たとえば、えんぴつで字を書いて間違えたと思ったら、さっと消しゴムが出てくるようなそんな感じ。

アメリカでは、店員が、腕組みしていたり、お客が来ても電話していたりする。

HK：日本の旅館はもっとしますよ。デパートの始業の時に全員並んでお辞儀するね。ディズニーランドでも、オーナーがホスピタリティを重要と考えているらしいです。

MO：旅館では、お茶をオーダーしなくても持ってきます。

A：ハーモニーが大切と思ってやっていると思います。

HK：日本だけではなく、タイ人のスマイルも自然だと思いますよ。

KK：バングラデシュの人から見たら、日本では電車の中で年寄りに席をめったにゆずらないのは、変と言っていますね。

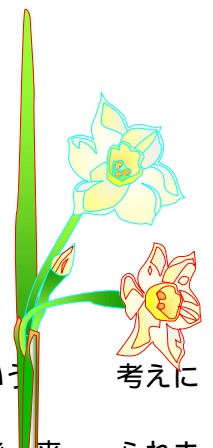
SK：西洋人の雄は、雌が弱いという発想で、強い者が弱い者を助けるのは、自然という考えに立っていると思います。

ここで、HN さんが登場。HN さんは、隣の部屋で中国語講座に 11:30 まで出席後、来られました。英語も話します。（これからどうぞ）

さて、いろいろ迷っていたメイスンさんは、自分で例を出して、参加者の意見を聞いていました。

さて、どう思われたでしょうか？

彼女は、セッションの最中も、その後のお昼ご飯の時も、ずーっと英語で話していました。日本人と英



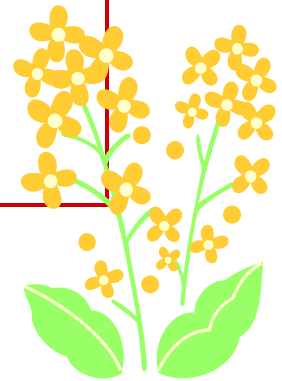
語でこんなに話したことはなかったみたい。日本語ももっと学びたいそうです。また、声をかけてください。e-メールのアドレスを知りたい人は、児嶋へ。

初めて他の国で生活をはじめると、いろいろな戸惑いが生まれていきます。でもそれを確かめないと、そのまま理解ができなくて、結局きらいになって帰国してしまうケースもよくあります。英語で話せる場が、それも日本人とあると、わからなかったことが聞けて、「なるほど」と思うこともあるようです。GlobalSession が、日本の文化で育った人の違う文化を知る居場所になっている場合と、外国から来て住んでいる人達の居場所になっているような気がします。これからも続きますので、どなたでも是非どうぞ。今回で正確にいうと、247 回目です。

"Office Com Junto" 〒621-0815 亀岡市古世町1丁目2 - 4 1

児嶋 きよみ tel : 0 7 7 1 - 2 3 - 6 5 7 9

E-mail : kiyomi-kojima@gaia.eonet.ne.jp



「ハバネロなんでも質問コーナー」開設中

事務局 (info@kyoto-habanero.com)宛にご質問いただければ、直接ご質問者にお答えすると共に、承諾いただいた内容は直近の号でも紹介したいと思います。
匿名希望の方は「匿名希望」と伝えてください。

事務局

奈佐有子さんのメキシコのお話

こんにちは寒さも少し和らいできましたね。お元気でお過ごしでしょうか？辛いもの食べて寒さも乗り切りましょう！！とか言いながら暑さも辛い物で乗り切ったりしてるので、ほとんど年中辛いもの食べてます

私の場合いつも美味しい辛いものを食べたい！けどフレッシュな唐辛子(チレ)が手に入らない・・・となるので・・・うちは篠ファームさんのチレを冷凍保存しています。なんとか家でも新鮮な状態で保存したいと思い、旬の時期に頂いたものをラップに小分けして包みそれをさらに密封ビンに入れて冷凍保存しています。これが大成功！今回は上手く保存できました。解凍してもさほど辛さは落ちないし、自然解凍したあとサルサにしています。



解凍した状態



ハバネロとトマトの
フレッシュサルサ

今回はハバネロサルサで今回はエンチラーダスをつくりました。

トルーテージャを焼いてさっと油に浸したあと、中に好きな具を巻いて

(何でもお好きなもので大丈夫。私はフリホーレスと呼ばれるビーンズをつめました)

ハバネロフレッシュサルサをかけチーズをのせてオープンへ！チーズがとろけると出来上がりです。

作るのに少し時間はかかりますが、

あつあつのものを食べると最高です。

辛さも効いてぱっちり元気になります～！

ちなみにエンチラーダの“エン”は中と言う意味で“チラーダ”はチレに浸されたという感じです。まさにチレに浸された

料理です・・・写真はエンチラーダス口ホ。

メキシコではよく朝食にも食べられています・・・朝からパワフルな食事ですよ。

フレッシュサルサのエンチラーダス是非お試し下さい
ピリ辛アツアツが癖になります。



エンチラーダス口ホ

バングラデシュからの便り・・・ですが、

今回はグレナダからです(最終回)

今回の旅で最後の国グレナダに入りました。104日の旅で、計16か国(アメリカ・メキシコ・ベリーズ・グアテマラ・ホンジュラス・エルサルバドル・ニカラグア・コスタリカ・パナマ・コロンビア・ベネズエラ・オランダ領キュラソー・スリナム・フランス領ギアナ・ガイアナ・グレナダ)周ることができました。幸い、強盗・窃盗・すり等の被害もなく、無事に旅することができました。

グレナダは、カリブ海に浮かぶ小さな国ですが、スパイスの国とも呼ばれ多くのスパイスがここから世界中に輸出されています。特に、ハンバーグなどに使われるナツメグは、世界の15%のシェアを持ち、ナツメグに触れずにグレナダを歩くことはできないと言われています。その他、ジンジャー・カカオの生産も盛んで、世界に誇るスパイス輸出国の生産管理から学ぶことはたくさんあります。

学んだことを取り入れ、4月からのバングラデシュの唐辛子生産に生かしたいと思います。

最近のバングラデシュは、ストライキや暴動が頻発し、多数の死者が出ています。早く落ち着いてくれることを祈っています。

